

全般季節予報支援資料 暖候期予報

2025年4月22日

予報期間：2025年5月～2025年8月

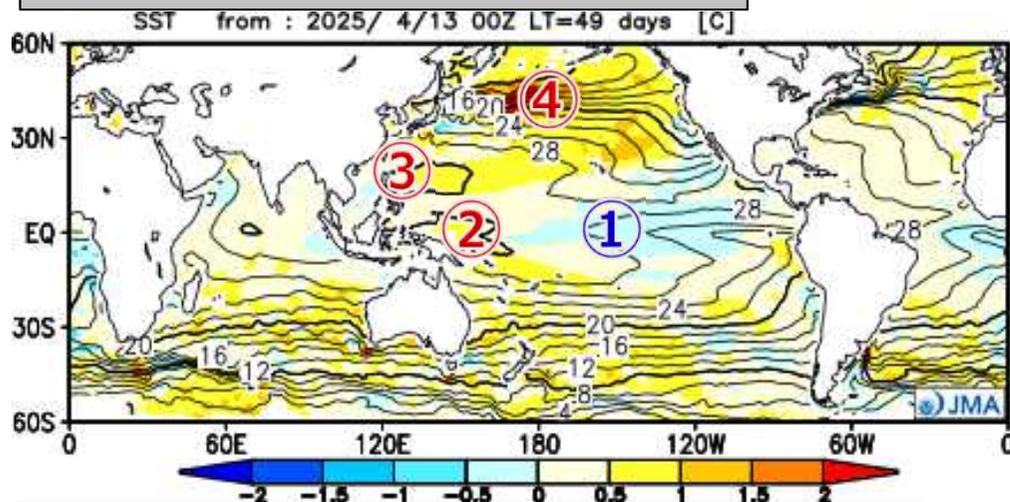
この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

熱帯の海面水温や対流活動の特徴に前回の予報との大きな違いがなく、予報根拠の変更がないため、2月25日に発表した暖候期予報の内容は変更しない。

暖候期（6～8月）の予報資料の解釈

暖候期(6~8月)の予報資料の解釈 海面水温

海面水温 等値線: 2(C)ごと; 陰影: 平年差()



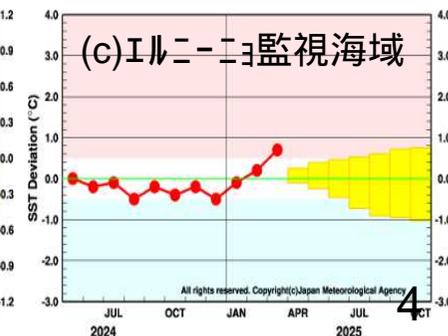
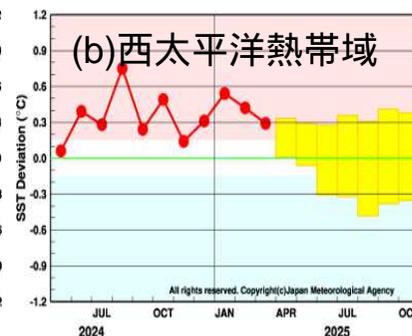
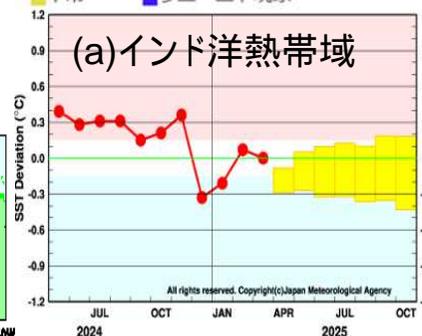
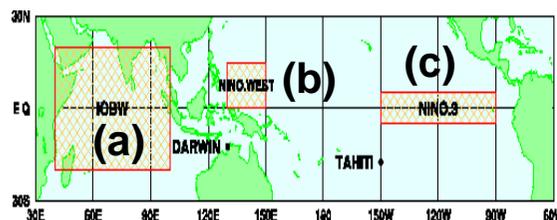
エルニーニョ/ラニーニャ現象の発生確率

年	月	平均期間	エルニーニョ現象	平常	ラニーニャ現象
	2月	2024年12月~2025年4月		100	
	3月	2025年1月~2025年5月		100	
	4月	2025年2月~2025年6月		100	
2025年	5月	2025年3月~2025年7月		100	
	6月	2025年4月~2025年8月	10	80	10
	7月	2025年5月~2025年9月	20	60	20
	8月	2025年6月~2025年10月	20	60	20

■エルニーニョ現象 ■平常 ■ラニーニャ現象

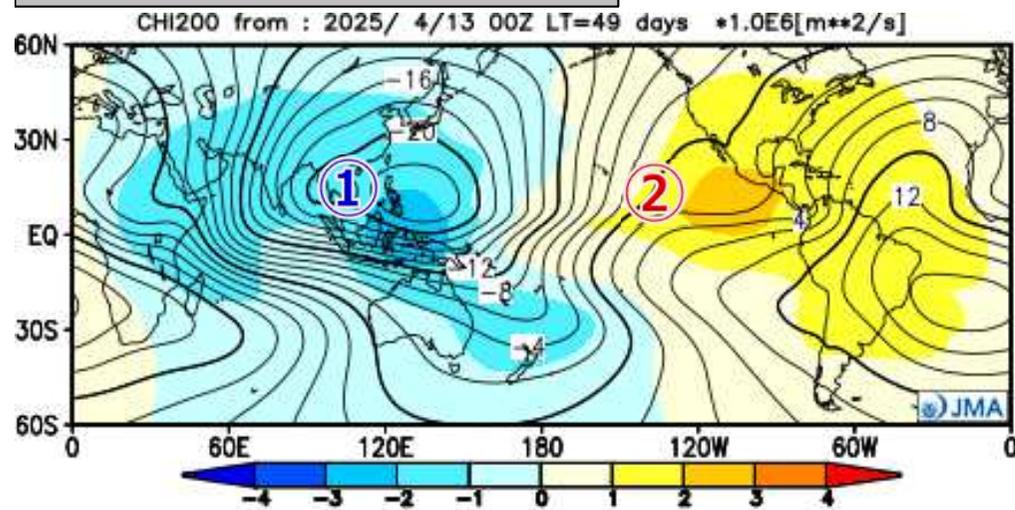
- 4月10日発表のエルニーニョ監視速報では、「エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態となっている。今後、夏にかけて平常の状態が続く可能性が高い(60%)。」
- 太平洋赤道域は、中部で弱い負偏差、西部で正偏差。ベンガル湾からフィリピン東方海上にかけて正偏差。
- 日本海北部から日付変更線付近にかけて正偏差。
- 平常の状態ではあるものの、海面水温が太平洋赤道域の中部でやや低く、ベンガル湾からフィリピン東方海上で高い状態が続くことの、大気や日本の天候への影響が検討のポイント。

監視指数の経過と予測



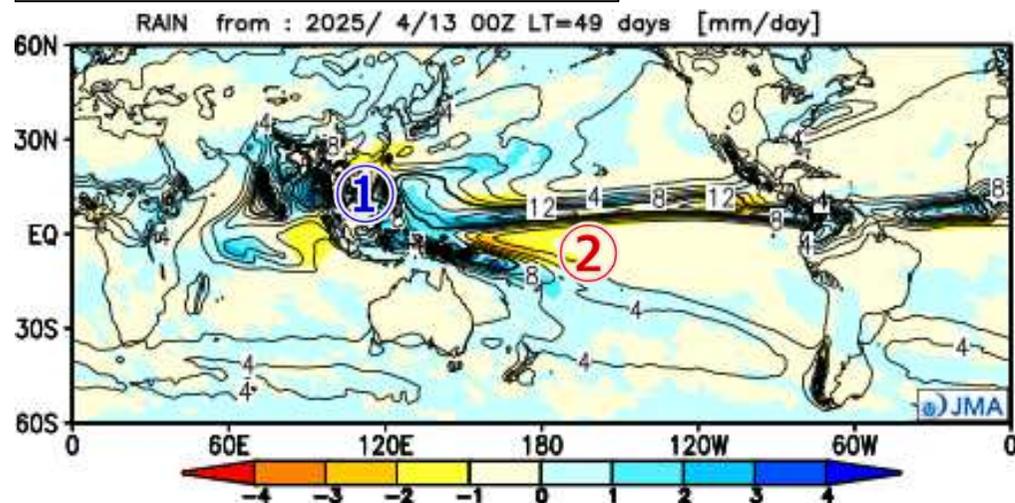
200hPa速度ポテンシャル

等値線: $2(10^6 \text{ m}^2/\text{s})$ ごと、陰影: 平年差 ($10^6 \text{ m}^2/\text{s}$)



降水量

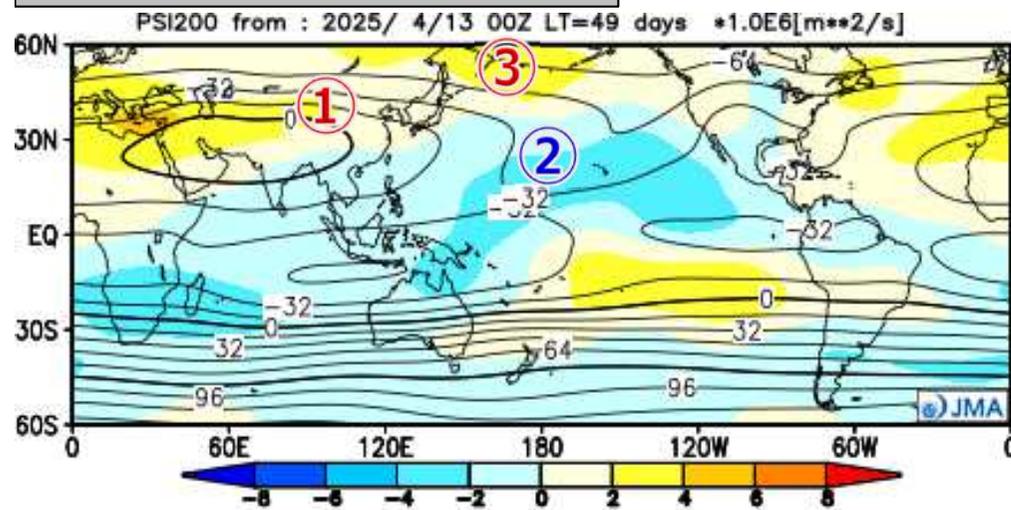
等値線: 2 (mm/day)ごと、陰影: 平年差 (mm/day)



- 降水量: 海面水温分布に対応して、ベンガル湾付近からフィリピンの東方海上にかけて正偏差で対流活発。アジアモンスーン域の対流活動はやや東側に偏って活発。一方、太平洋熱帯域の日付変更線付近では対流不活発。
- 200hPa速度ポテンシャル: 対流活動に対応してベンガル湾付近からフィリピンの東方海上で上層発散偏差。一方、太平洋熱帯域中部から東部で上層収束偏差。

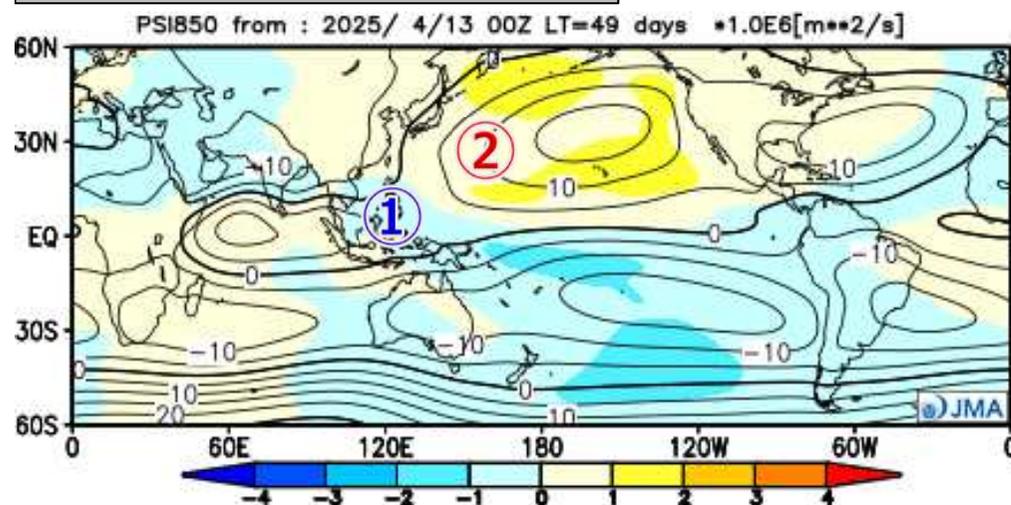
200hPa流線関数

等値線: $16(10^6 \text{ m}^2/\text{s})$ ごと、陰影: $(10^6 \text{ m}^2/\text{s})$



850hPa流線関数

等値線: $5(10^6 \text{ m}^2/\text{s})$ ごと、陰影: $(10^6 \text{ m}^2/\text{s})$

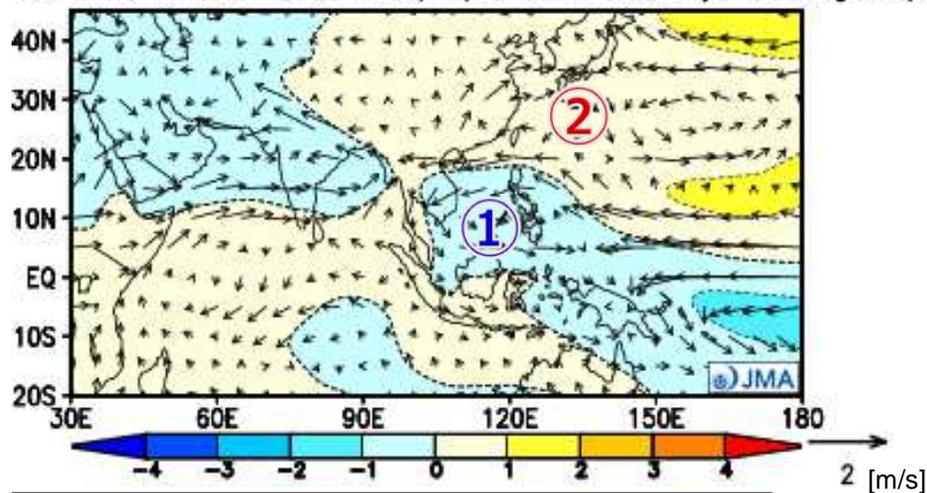


- 200hPa流線関数: 熱帯の上層収束・発散偏差に対応して、チベット高気圧は、その軸より北側で高気圧性循環偏差で強く、亜熱帯ジェット気流が平年より北に偏って流れる。一方、日付変更線付近の亜熱帯域で低気圧性循環偏差で、その北の千島の東付近で高気圧性循環偏差。偏西風は中国大陸から日本付近にかけて、平年の位置より北を流れやすく、日本の東では弱い。
- 850hPa流線関数: 対流活動の偏差に対応して、南シナ海付近で低気圧性循環偏差、日本の南東から日本の南付近で高気圧性循環偏差。日本付近は太平洋高気圧に覆われやすいことを示唆。
- 日本付近の亜熱帯ジェット気流は弱く、また、平年よりも北の緯度帯を流れる。このため、日本付近は暖かい空気に覆われやすい。

850hPa流線関数平年差及び風ベクトル平年差

陰影: 850hPa流線関数 平年差 ($10^6 \text{ m}^2/\text{s}$)、ベクトル: 850hPa風ベクトル平年差 (m/s)

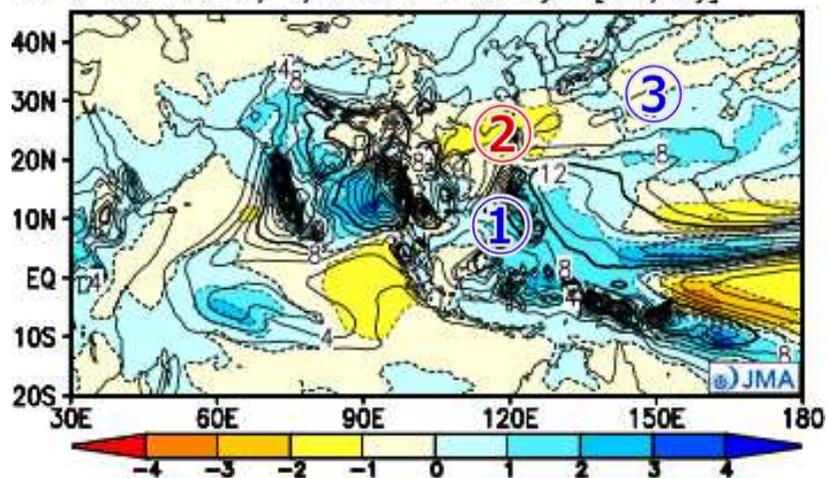
PSI850 & wind850 from : 2025/ 4/13 00Z LT=49 days *1.0E6[m**2/s]



降水量及びその平年差

等値線: 2 (mm/day)ごと、陰影: 平年差 (mm/day)

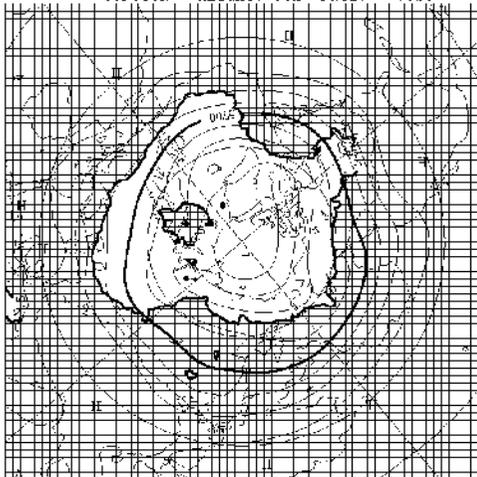
RAIN from : 2025/ 4/13 00Z LT=49 days [mm/day]



- 下層循環(850hPa流線関数)は、活発な対流活動に対応して南シナ海付近で低気圧性循環偏差、対流不活発域に対応して日本の南東から日本の南付近で高気圧性循環偏差。このため、日本付近は高気圧に覆われやすい時期がある。また、湿った空気が流入しやすい時期があるが、沖縄・奄美付近は高気圧性循環偏差のリッジ軸がのび、湿った空気が流入しにくい。
- 対流活動(降水量)は、ベンガル湾付近からフィリピンの東方海上にかけて対流活発(多雨偏差)。その北の華南から南西諸島の東にかけて少雨偏差。華中付近から本州付近にかけて多雨偏差。
- ただし、日本付近、日本の南の予測精度は低い。

暖候期(6~8月)の予報資料の解釈 北半球の予測

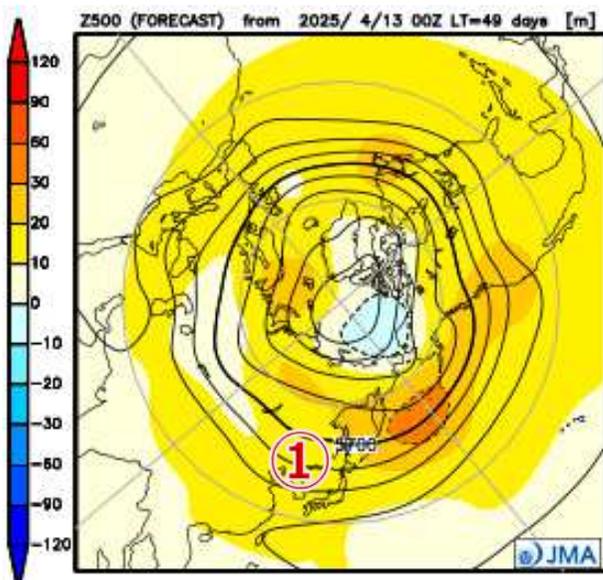
3 MONTH MEAN (6/ 1- 8/31) N:51
PROB. OF T. ANOMALY AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 60m PROB. 0.25



- 500hPa高度は、ほぼ北半球全域で正偏差で、亜熱帯域から北緯60度付近にかけてはほぼ全域で**正の高偏差確率50%以上** となり、日本付近も強い正偏差域に覆われる。
- 850hPa気温: 500hPa高度に対応して北半球では全域で**正偏差** 。日本付近は暖かい空気に覆われて高温傾向を示唆。
- 海面気圧: 太平洋高気圧が日本付近で**強い** 。オホーツク海高気圧の強弱に関するシグナルはない。

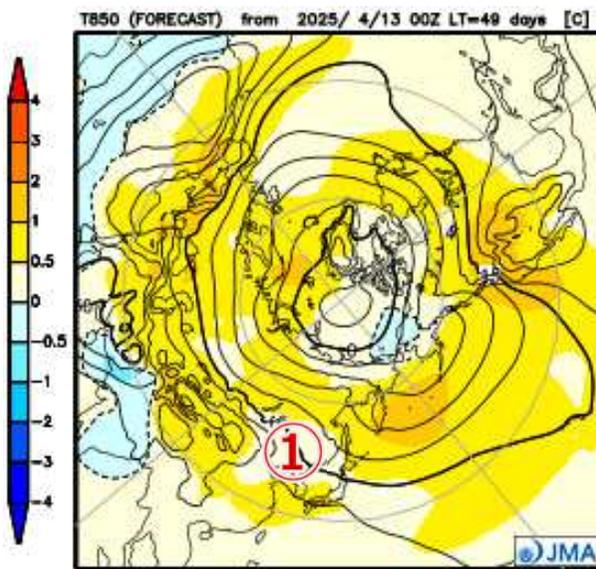
500hPa高度

等値線: 60(m)ごと、陰影: 平年差 (m)



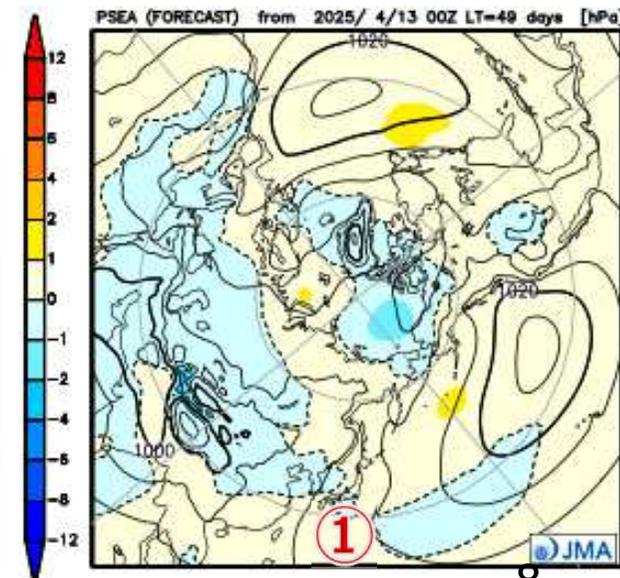
850hPa気温

等値線: 3(C)ごと、陰影: 平年差 (C)



海面気圧

等値線: 4(hPa)ごと、陰影: 平年差 (hPa)



中緯度層厚換算温度 高い(+0.7 程度、北半球全体も同程度)

= > 昨夏よりは0.5 強低いが、地球温暖化等で全球的に高温傾向

気圧配置(地表・対流圏下層)

チベット高気圧は軸の北側で強く、亜熱帯ジェット気流は平年より北に偏って流れる。一方、太平洋高気圧は、北への張り出しが平年よりも強く、日本付近を覆いやすい。これらから、日本付近は暖かい空気に覆われやすい。一方、北・東・西日本では梅雨前線の活動が活発な時期がある。

夏の予報

暖かい空気に覆われやすいため、気温は全国的に高い。

